

新潟大学医学部

学友会誌



50

新潟大学医学部学友会

生に伝えたいこと」
・安定志向で行動し
で年代に相応しく成
りと今の自分を客観



医学部生へのメッセージ 医学は“実学”

腎・膠原病内科学分野（内科学第二）教授 成田 一衛

私は医学部の学生の皆さんに、“医療や医学は実学である”というメッセージを送りたいと思います。もともと“実学”というのは福沢諭吉が創った言葉で、「次代を担うために必要な、自立した精神と、状況を再構成し創造する力」「新しい試みの中で現実を切り開いていく精神」の重要性を説く際に使用した言葉とされていますが、私は医療・医学はまさに実学であると思っています。つまり、医療は理論（あるいはシミュレーション）だけでは全く役に立たないし、何の意味もない。学んだ知識や習得した技術を、実際にヒトに対して実行して、初めて本当に自分の身に付いたと言えます。また、その進歩につながる医学こそが社会に貢献することができます。この医学部で学び卒業して、医師や医学者として活躍することが実学であり、その過程での経験一つ一つが、また自らを成長させます。

教官、上司や先輩からの指導を十分に受けることは当然ですが、それと同じくらい、あるいはそれ以上に、同僚やコメディカルスタッフから、あるいは患者さんから、学ぶことが多いはずで。患者さんの訴えや症状の、一つ一つに真摯に向き合う姿勢を、どうか忘れないで欲しいと思います。多忙な日常の中で、実はこれが最も難しいことであり、大切なことでもあると私自身も実感しています。隠れた重要な疾患を発見することや、偉大な医学的発見は、しかしこのような、見過ごしてしまいがちな小さなことを、きちんと受けとめることから始まるものだと思います。実学としての医療を実践しながら、同時にあらゆるものから「学ぶ」という姿勢を、積極的に持ち続けることは、非常に重要なことです。

医師あるいは医学者として病に苦しむひとを癒す、あるいは医療・医学の進歩に貢献するという、多くの皆さんが入学時に抱いていた志を忘れないで下さい。そのうえで、学生にしかできないことも多いのも事実ですので、医学生としての生活を存分にエンジョイして欲しいと思います。